



新時代を迎える日中関係

環日本海経済交流センター長 藤野 文悟

急発展する環渤海地域

本年10月、環日本海経済交流センターは、富山県の企業・団体などで編成した代表団を中国天津市・大連市・煙台市の環渤海地域視察に派遣した。環渤海地域とは、北京・天津・河北省／山東半島／遼東半島の三つの地域を指す。今この地域は、天津濱海新区や河北省曹妃甸区（北京の首鋼集団が移転）などが中心となり急発展を始めており、かつて孫文が夢見た発展が現実のものとなりつつある。特に天津は長い間北京の陰に隠れる様な印象が強かったが、インフラの整備が急速に進み、今後は中国全土の商工業・金融の重要な拠点の一つとなるだろう。また、かつては埃っぽい街で雑然とした印象が強かったが、今は清潔で明るい都会に変貌を遂げつつある。環境問題にも十分に配慮した工業配置を行っているのだろう。環境先進都市を目指し“天津生態城（エコシティ）”も建設されつつある。北京－天津はすでに高速鉄道で30分で結ばれている。欧米の企業進出が活発である一方で、日本の存在感が小さいのが気になった。

山東半島は日本にとっては重要な農産物の供給基地である。強く印象に残ったことがある。煙台市と青島市から車で3時間程の山東省郊外に日本の大手企業が農場の経営に乗り出したことだ。酪農事業で牛乳を生産し、環境循環型野菜、果実等の栽培を始めている。山東省は農業大省であり、これは日中農業協力の一つのモデルとなるのではないか。これが中国全土へ広がっていけば日中協力の一つの新しい時代を告げることになるだろう。

煙台市はハイテク産業などが急速に発展している。大連市の発展は言う迄もない。老後にも移住するとすれば、煙台、大連、青島などに住みたいと思う。今回の訪中で各地のリーダーが暖かく迎えてくれ、富山県との協力を大いに進めたいとの意欲が充分であった。富山県としても今後環渤海地域との交流を大いに進めるべきであると思う。

新時代を迎える日中関係

鳩山政権は日中関係を新しい発展段階に導くだ

ろう。日中関係は単なる二国間のみではなく、アジアの、そして世界へ影響を与える関係となるのではないか。鳩山首相の言う“友愛”と胡錦涛主席の言う“和諧”とはある種の共通感がある様だ。リーマンショックを作り出したウォールストリートを中心とする原理主義的市場経済システムにどの様に歯止めをかけるか、オバマ政権にとって重大なテーマであると同時に、日本や中国にとっても大きな政治的課題だろう。抑制の効いた穏やかな市場経済をどの様に作り出していくか、友愛と和諧がどの様に結合して行くか、オバマ、鳩山、胡錦涛の三名のリーダーがどの様に協調するか見守っていかねばならない。

鳩山首相は東アジア共同体の組成を提唱している。米州、欧州が共同体を明確にしているなかでアジアだけが取り残されてきた感が強い。特に世界経済に占める東アジアの重要性を考えると尚更である。その意味で鳩山政権の誕生と同時に共同体構想が提案されたことは大きな意味があるだろう。オバマ大統領はアメリカも環太平洋国家であると宣言している。

東アジア共同体実現の為には越えなければならない二つのハードルがある。一つは共同市場の形成であり、もう一つは通貨問題である。FTA或いはEPAの形成については、一国家の利害を離れ、東アジア全体に立つという政治判断が必要である。通貨問題については、米ドル一極軸体制が困難になりつつあることを先ず認識しなければならない。その上で、日中両国が協調してアジアの共通通貨の組成に向かって段階的に動くべきである。東アジア共同体は遠い夢であると語られる論調が多いが、アジアには多様の中にも共通の文化的価値観が存在すると私は考える。それは友愛と和諧かも知れない。いや、共通の価値観を求めて今こそ動くべきと考える。とりあえずはASEAN+3だろう。同時に環太平洋国家であるアメリカとの協調を工夫しなければならない。日中はお互いに覇権を争わず協調する新時代を模索すべきである。

以上